



池原動物病院院長

(富山市経堂)

古藤 寛規

犬はドッグランやアジリティで運動しているときだけでなく、日常生活の何気ない動きでも足を痛めてしまうことがあります。今回は、多くの犬が罹患する前十字靭帯断裂について解説します。

前十字靭帯は後肢の膝関節に存在する靭帯で、後十字靭帯と十字にクロスするように走っています。膝関節内には半月板という軟骨が存在し、半月板損傷を併発することがあります。

## 犬の前十字靭帯断裂

前十字靭帯断裂の平均発生年齢は7歳ごろです。当院では歩行異常で来院する犬の約20%のみ

られます。ゴールデンレトリバーなどの大型犬でよく発症するとされていますが、チワワやトイプ

を行います。治療法に外科手術があります。術式はいくつかありますが、当院では「脛骨高平部水平化骨切術」を採用しています。

## 適正体重で負荷かけない

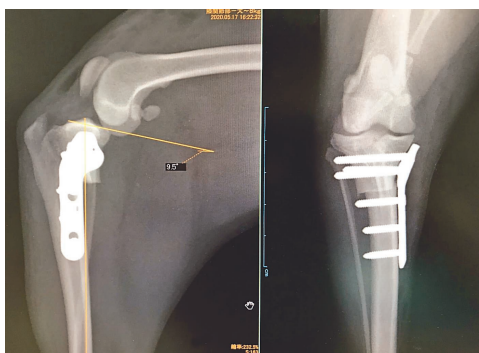
す。

ードルなどの小、中型犬でもみられます。

脛骨の関節面の傾斜を水平になるように骨を切ることによって膝関節を安定化させます。残存する靭帯を保護する効果が証明されています。術後は安静にしながらリハビリを続けます。2カ月ほどで症状が改善します。

原因は解明されていない点もありますが、慢性的に靭帯に負荷がかかり続けることで脆弱化が進み、ある日突然ちよつとした刺激で断裂してしまうことが多いとされています。

近年は犬の高齢化に伴い、前十字靭帯断裂を含め、関節の疾患が増えています。関節や靭帯に過剰な負荷をかけないように、適正体重を心掛けましょう。室内飼いの場合は、床を滑りにくい材質にする



当院で実施した脛骨高平部水平化骨切術の術後写真。骨切りを行い、プレートで固定している（白い部分）

篤化しやすくなります。診断は歩行検査や触診、レントゲン検査で

ことでも予防できます。